



第12回 JAB特別セミナー

広島大学

平成27年8月27日 15:00～16:30

広島大学生物生産学部 C301教室

「形態学の今日的可能性 なぜ形を見るか？」

遠藤 秀紀 教授

東京大学総合研究博物館



動物の形は、かつては進化学的系統関係の解明のために不可欠な観察対象であった。客観性の高い系統推定手法に乏しかった頃、人々は藁をもすがる気持ちで、形態の類似と相違を探り出し、その比較論議を系統分類学に用いた。だが、当然形態学は、相似や収斂なる強大な反例を突き付けられるに至り、マクロ形態学的情報は系統よりも機能を反映することを噛みしめねばならなかった。時移り、困難は伴うものの、どうやら生体の機能性の議論を形態学が妥当に掌握しつつある今日、マクロ形態学の現状と未来を整理しておきたいと思う。事例は鳥類・哺乳類の咀嚼メカニズムやロコモーション機構など、マクロ運動器にまつわる話題が多くなると思う。そしてもうひとつ、普通に考えられる科学的探査以上に、私の場合、形への憧れがこの仕事への動機付けを確定している。すなわち、形から真理を探究する道筋以前に、形を集め形を触知する行為そのものが形態学に携わる原動力となる。近代学術施策と結びつく形では説明し得ない、個人・集団・社会の欲求として、形に対する飽くなき執念が人間に存在し続ける事実を楽しんでみよう。

本講演は5研究科共同セミナーの単位になります